



Dependency Records

この付録では、Cisco CallManager Administration 内の Dependency Records のウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）が特定のコーディング サーチ スペースを使用するかを判別できます。

Cisco CallManager からレコードを削除する必要がある場合、Dependency Records を使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- [Dependency Records の使用可能化 \(P.A-2\)](#)
- [Dependency Records の使用不可 \(P.A-3\)](#)
- [Dependency Records へのアクセス \(P.A-4\)](#)
- [Dependency Records ボタン \(P.A-6\)](#)

Dependency Records の使用可能化

Dependency Records にアクセスするには、まず Dependency Records を使用可能にする必要があります。システムでは、Dependency Records はデフォルトで使用不可になっています。Dependency Records を使用可能にする手順は、次のとおりです。



注意

Dependency Records 機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤル プランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

手順

ステップ 1 System > Enterprise Parameters の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの CCMAAdmin Parameters 領域にスクロールします。

ステップ 3 Enable Dependency Records ドロップダウン リスト ボックスから、True を選択します。

Dependency Records を使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。OK をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

ステップ 4 OK をクリックします。

フィールドに False が表示されます。

ステップ 5 Save をクリックします。

Dependency Records の使用不可

Dependency Records を使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、Dependency Records を使用不可にすることができます（システムでは、Dependency Records はデフォルトで使用不可になっています）。Dependency Records を使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 System > Enterprise Parameters の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの CCMAAdmin Parameters 領域にスクロールします。

ステップ 3 Enable Dependency Records ドロップダウン リスト ボックスから、False を選択します。

Dependency Records に関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。OK をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

ステップ 4 OK をクリックします。

フィールドに False が表示されます。

ステップ 5 Save をクリックします。

Dependency Records へのアクセス

Cisco CallManager の設定ウィンドウから Dependency Records にアクセスするには、Related Links ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records - Summary ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco CallManager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。

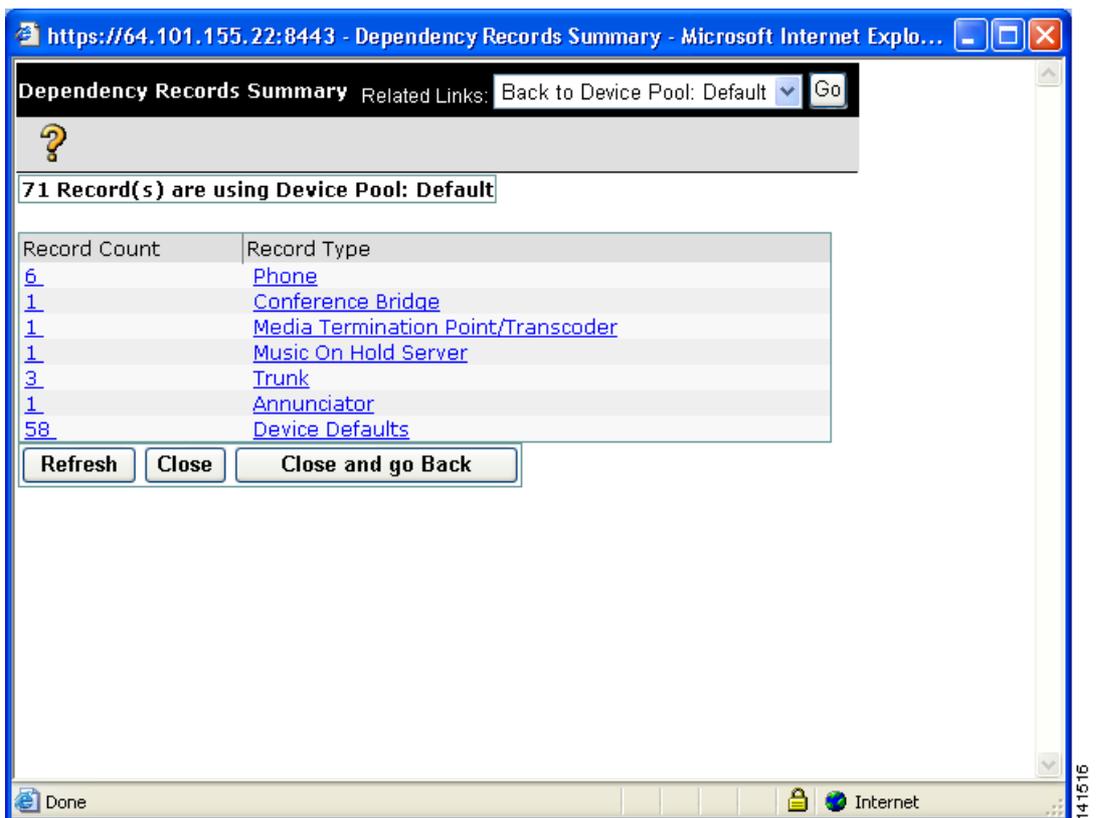


(注)

Dependency Records が有効になっていない場合は、Dependency Records - Summary ウィンドウにメッセージが表示されます（レコードに関する情報は表示されません）。Dependency Records を使用可能にするには、[P.A-2](#) の「[Dependency Records の使用可能化](#)」を参照してください。

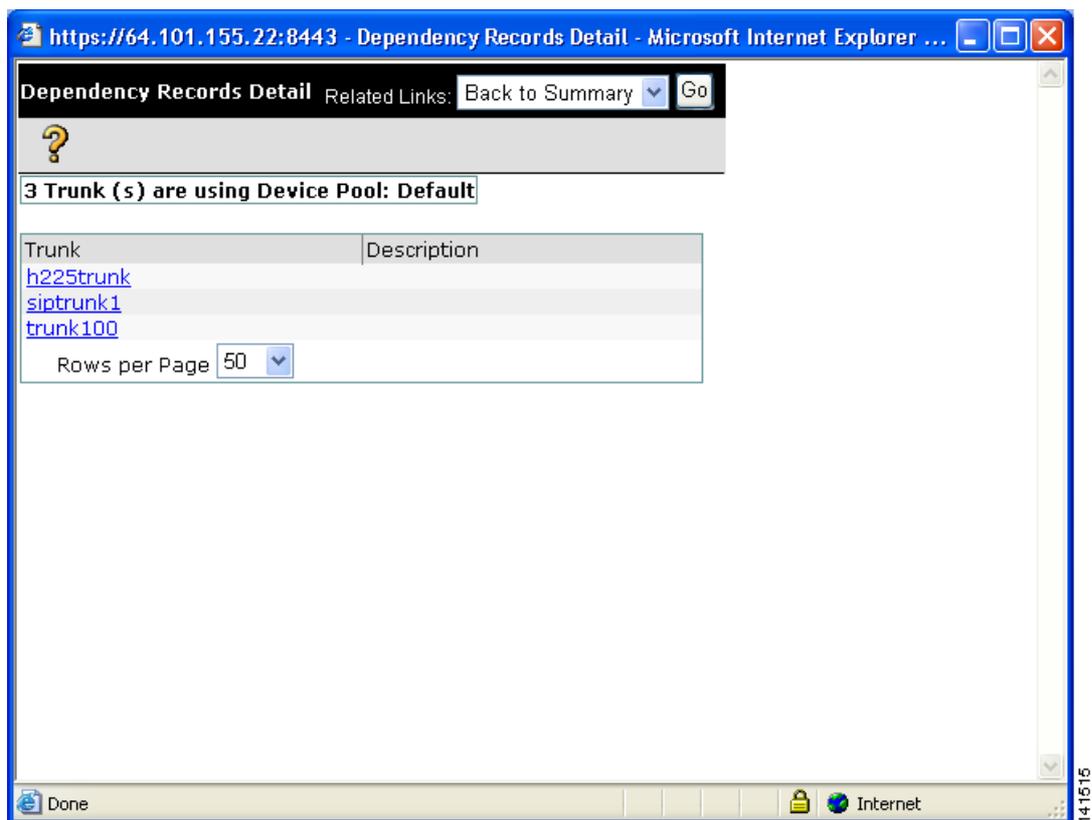
たとえば、Device Pool Configuration ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、Dependency Records リンクをクリックすると、Dependency Records Summary ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます（[図 A-1](#) を参照）。

図 A-1 Dependency Records - Summary の例



Dependency Records の詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします（たとえば、トランク レコードをクリックします）。Dependency Records Detail ウィンドウが表示されます（[図 A-2](#) を参照）。元の設定ウィンドウに戻る場合は、Related Links リスト ボックスから Back to Summary を選択して **Go** をクリックします。その後、Back to <設定ウィンドウ名> を選択して **Go** をクリックするか、または **Close and go Back** ボタンをクリックします。

図 A-2 Dependency Records - Detail の例



Dependency Records Detail ウィンドウに表示されているレコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、図 A-2 に示されている h225trunk レコードをクリックすると、Trunk Configuration ウィンドウに、h225trunk に関する情報が表示されます。

Dependency Records ボタン

Dependency Records Summary ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示されます。

- Refresh : ウィンドウを現在の情報で更新する。
- Close : ウィンドウを閉じる。ただし、Dependency Records リンクをクリックした Cisco CallManager の設定ウィンドウには戻らない。
- Close and Go Back : ウィンドウを閉じ、Dependency Records リンクをクリックした Cisco CallManager の設定ウィンドウに戻る。